

2-9

演題	ケアプラザのつながりを活かした子ども支援
副題	

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	横浜市六角橋地域ケアプラザ

発表者名 (職種)	安信 昌子 その他	都道府県	神奈川県
共同発表者	小川 望	住所	横浜市六角橋 3-3-13
共同発表者		TEL	045-413-3281
共同発表者		FAX	045-488-3138
共同発表者		メールアドレス	rokkakubashi_cp@wakatake.or.jp
共同発表者		URL	https://wakatake.net/category/facility/careroKKaku/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横浜市神奈川区にある地域ケアプラザ。地域包括支援センター、地域活動交流部門、生活支援体制整備、居宅介護支援事業の4部門があり、地域の福祉保健活動の拠点となっている。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

これまでに六角橋地域ケアプラザでは、子育て広場や常設キッズルーム、水遊びやハロウィンパレード等、未就学児対象の事業を多く実施してきた。しかしここ数年、小学生を対象とした事業を多く企画実施する中で、少数ではあるが支援が必要な子どもたちの現状がみえてきた。事業のつながりから、協働にて実施した事業について発表する。多くの機関とつながりのあるケアプラザだからこそその居場所づくりの意義と、少子化、核家族化グローバル化が進む社会背景によって変化する子どもの課題にどう向き合えるか、ネットワークを活かした支援をどう構築していくかを考え実践した。

取り組んだ課題

「不登校支援」「きょうだい児支援」「外国につながる子どもの学習支援」について取り組んだ。それぞれ支援を必要としている子どもたちは少数であることや、専門的なサポートが必要な部分もあり、一事業所では実施が難しいことに対し、ケアプラザのネットワークを活かして他機関を巻き込み、個別の課題に丁寧に関わることを心掛けた。

具体的な取り組み

2023年度、ほぼ同時期に開始。
【不登校支援】
隣の区で活動実績のあった団体と共催にて実施。毎月一回、定期実施。
【きょうだい児支援】
近隣放課後等デイサービスと実施。参加人数は少ないものの、参加者の満足度、継続の希望が強い。
【外国につながる子どもの学習支援】
2023年度夏休みの宿題支援からスタートしたが、継続の要望が強く、毎月二回実施。宿題に留まらず、日常生活の困りごとへの対応にも柔軟に対応している。

活動の成果と評価

事業の認知度が上がるにつれ、教育関係機関からケアプラザへ直接の連絡が入ることも増えてきた。一事業所では、課題はあっても実施が難しい支援に対し、ケアプラザの強みである連携から事業を実施してきたが、個別のサポートを通じて関係機関との連携が強化され、信頼関係が増してきている。三つの事業を行うことで、複合的な課題を抱えた家族への支援の必要性もみえてきている。

今後の課題

- 継続性の課題
それぞれの対象者の人数は少ないが、確実にサポートが必要な子どもたちに対して、事業を継続して行うことで、必要な時に必要な資源にアクセスできる環境をつくっていく必要がある。
- 広報の課題
現在行っている活動の広報を強化し、必要としている人に届く仕組みづくりをしていく必要がある。
- 複合的な課題へのアプローチ
個別性の高い複合的な課題に対し、より専門的な機関との関係を密にし、見守り、つなげる仕組みが必要。